資料６

静岡県に関する若年層意見の報告
（若者カフェ実施による意見のまとめ）

【若者カフェ運営メンバー】
藤田智尋（静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科4年）
林優介（静岡大学人文社会科学部言語文化学科3年）
成田真也（静岡大学人文社会科学部言語文化学科3年）
伊藤紗予乃（静岡大学人文社会科学部法学科2年）

若者カフェの概要

若年層の意見を次期総合計画へ反映させるために大学生等が集まり静岡県の現状や課題について意見を交わす場として実施。

【開催日程】

1回目　令和3年8月25日(水)17:30～19：30

2回目　令和3年9月8日(水) 17:30～19：30

3回目　令和3年9月15日(水) 17:30～19：30

若者カフェの概要

【実施方法】

全3回ともオンライン（zoom）で実施。zoomのブレイクアウトルーム機能を用いグループに分かれて議論を行った。

【参加者】

静岡県内の3大学10学部の学生、若手社会人延べ37名が参加

若者カフェの概要

【1回目】
・静岡県の現総合計画の概要や県の概況について学習

・学習内容や各自の経験等をもとに、若年層視点で静岡県の今後を考える上で重要だと思う事項について意見交換

【2・3回目】
・1回目に出た意見をもとに運営メンバーと県で協議し、設定したテーマに沿ってグループごとに分かれて議論

1回目の主な意見

・若年層女性の流出の多さは静岡県だけの傾向なのか

・若い世代、女性が働きたいと思える環境が重要

・学生は進学先を地域ではなく大学で決める。大学の規模・収容人数・学部編成や難易度等で若い世代の集まり方は変わる

1回目の主な意見

・どの地域で働くかよりどの会社で働きたいかが優先されがち

・住めば満ち足りた良い県である。一方で住む前にはその魅力に気づけない

・コロナ禍を契機とした価値観の転換に対応した県の魅力を見つけ、発信することが必要ではないか

議論のテーマ

A「女性を取り巻く環境」
若い女性の流出が続く現状を踏まえ、もっと女性が住みやすく、活躍できる地域となるためにはどうしていけばよいか

B「静岡県の防災」
県外からきた若者の視点も踏まえ、県外からも安全な地域と思われ、県民の防災意識を高めていくにはどうしたらよいか

C「県内資産(魅力・価値)の再発見」
コロナ禍の状況を踏まえ、県内の魅力や価値を再発見・再発掘し、活用していくにはどうしたらよいか

A「女性を取り巻く環境」についての意見

・企業や団体の役員や管理職など重要なポストの大半は男性というイメージは女性にとってポジティブな印象ではない。管理職や上司、先輩に女性がいるだけで安心感が得られる

・産休、育休後に女性がどの程度元のように職場に戻れているのか実態が知りたい

・女性が働くことにハンデを感じる情報が多いが、逆にロールモデルとなる女性たちの話をもっと知りたい

・男女とも休暇の取りやすい職場環境は安心できる

A「女性を取り巻く環境」についての意見

・学生の時点でセクハラやモラハラ等を体験することは現在でも珍しくない。就職面接でのハラスメントも実際に起きている。社会に出る前から不安を抱いている人が少なくないのに、それらが解消されないまま「女性活躍」という言葉が掲げられるのは女性としては重い

・静岡県の産業構造として製造業の割合が高いことが特徴だが、女性が働く先としてのイメージは持ちにくい。今は改善されていることも多いはずだが、力仕事や男社会などステレオタイプが根強い。実際に働いている女性の声や、製造業と一括りにせず、実際の様々な仕事についても情報を受け取れると良いのではないか

B「静岡県の防災」

・静岡県は防災減災に注力していると思うが、学生は防災対策等意識することがあまりない

・GIGAスクール構想などで一人一端末になるのであれば、県の防災アプリをインストールするなどで児童生徒への啓発を進めては

・県外出身者から見ると静岡県には「南海トラフ地震」というイメージがついてくる。このイメージは無くすことはできなので、県も県民も日頃から対策をしっかり行なっているということが県内外で共有されることが大切

B「静岡県の防災」

・発災時に県民各自が「今なにをすべきか」判断し行動できる状況を目標に啓発事業や教育がなされるべき

・企業誘致が順調という印象を持ったため、企業が立地先として静岡県をどう見ているか、災害対策をどう考えているかなどを発信することはPRになるのではないか

C「県内資産(魅力・価値)の再発見」

・県民でも静岡県の魅力を実感できないまま進学や就職で転出する人がいる

・「静岡県の魅力（特徴）は？」と尋ねられて、富士山・お茶・みかん・気候が温暖以外の言葉を聞くことがあまりない

・東京はじめ大都市へのアクセスが良い（どこでも行きやすい）

C「県内資産(魅力・価値)の再発見」

・遊ぶ場所が少ない↔実際住めば田舎でもなく程よい

・身近に観光できる場所が多いのはメリット

・東京で広まっているサービス等の導入が遅い（情報取得にタイムラグが無くなってきているので大都市圏と比較してしまう）

・外国人も多いのでもっと多文化の県と言ってほしい

まとめ

A「女性を取り巻く環境」

・女性が活躍できる環境づくりには、女性たちの声を集め、男性にも同じような課題意識を持ってもらう必要がある
（女性に関することは女性多数の場で議論してほしい）

・県内の様々な業界、職種で働く女性たちの姿を知る機会が必要

・若年層のハラスメントへの意識は高い。かつての価値観のままの人も変わるよう社会全体で一層の啓発をしてほしい

まとめ

B「静岡県の防災」

・南海トラフ地震が起こると言われるからこそ、しっかり対策されていること、県民も意識が高いことなどがPR材料となり得る

・防災に対する県民意識が高いと言えるための土壌づくりとして、若い世代への防災教育充実化

C「県内資産(魅力・価値)の再発見」について

・若い世代にとって、静岡県のイメージや魅力は漠然としている。住まないとわからない「住みよさ」など、実際に暮らす県民の具体的な言葉で伝えていくべき。県民側も「静岡県とはどんなところ？」という問いへの返答を「富士山・お茶・みかん・温暖」からアップデートする必要がある

まとめ

全テーマ共通

・若年層への広報が届いていないことは課題。様々な取り組みがされていても、認識されないのはもったいない。情報発信媒体の散在や、若年層向けとされている媒体の発信内容が若年層を向いていないなどがないか分析が必要。若い人に届けたい情報はアプリで一元化するなどの方法も考えられる

ご清聴ありがとうございました